

科目名	異文化間コミュニケーション論 特殊研究	担当者	ニシダ 西田 ツカサ 司	期間	通年	単位数	4
-----	------------------------	-----	--------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目 的	アメリカのコミュニケーション研究の中における理論研究と特定テーマ研究は、特に、日本におけるコミュニケーション研究に影響を与える。 つまり、価値観と文化心理に関するコミュニケーション研究は、異文化間コミュニケーション研究の特定テーマの研究であり、50 数年に及び研究と調査の蓄積がある。 本講座の目的は、この蓄積された研究について学ぶことである。 この目的を達成することにより、豊かな知識と教養に基づく高い倫理観を習得すると共に、倫理的及び批評的な思考能力をはじめ、問題発見・解決力、コミュニケーション能力、省察力を身につけることを目指す。		
到達目標	【一般目標（GIO）】 異文化間コミュニケーション研究における特定テーマの研究について学び、グローバル社会において文化背景の異なる人々と共生する際に必要なコミュニケーションの知識と能力に関する高度な研究の知識・解釈を深める。 【行動目標（SB0s）】 学修者は、教材及び関連する専門書を批判的に読み、特定テーマに関する 40 年来の研究結果を列挙し、関連付け、理解する。 研究手法と研究テーマについて、幅広い範囲の理解を深める。		
学修方略 （方法）	【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 ・manaba folio の掲示板を利用し受講者同士の共同学習をやってください。 ・図書館で、あるいはインターネットから、関連する図書や論文を検索・入手し、批判的に読み、レポートを作成してください。 【学修方略（LS）と学修時間】 教材の熟読、OER による自律的学習、参考論文の検索と批判的熟読、レポートの作成を実行してください。 学修時間については、各レポート課題の準備から完成までに、次の目安に 45 時間の学修時間を要するものとする。 教材の学修：15 時間、レポートの執筆：15 時間、レポートの推敲最終稿の完成 15 時間		
スケジュール	前期レポート課題 1 初稿は授業の始まり次第提出可。最終稿は学事暦で定められた日までに提出。 レポート課題 2 初稿は授業の始まり次第提出可。最終稿は学事暦で定められた日までに提出。 後期レポート課題 1 初稿は授業の始まり次第提出可。最終稿は学事暦で定められた日までに提出。 レポート課題 2 初稿は授業の始まり次第提出可。最終稿は学事暦で定められた日までに提出。		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	レポート	8 0 %	要約の正確さ、要約の構成、文章表現の妥当性、考察の独創性、引用の適切性、論旨の明確さ、注のつけ方の適切さ
	観察記録	2 0 %	草稿の改善度：草稿への加筆、修正 レポート連作への対応
履修者への要望	・要約問題については、課題の章を熟読し、定めた文字数に、バランスよくまとめてください。 一度要約した文字数が定めた文字数よりもはるかに多くなった場合、教科書をもう一度読むのではなく、次回は自分の作った要約から更に要約し、文字数を調整してください。 ・考察の課題については、次の 2 点が重要になります。 1）要約した章に用いられている専門用語を用いて論旨を展開する。 2）テーマに関する知識と経験をもとに考察する。 ・教科書以外の文献から引用することも勧めます。		

【レポート課題】

基 本 教 材 1	
教材の概要	著者名： マツモト, D 教材名： 『文化と心理学：比較文化心理学』（北大路書房，2001 年） ISBN:974-76-28220-9 2,500 円＋税
	本書は、文化と自己、感情という構成と、文化と言語、コミュニケーションという構成でもって、本書のテーマである心理とコミュニケーションについて論じています。 心理学の研究に、文化的要因を認める必要性が強調されているところから、異文化コミュニケーションの領域でもよく読まれている図書です。
参考図書	Matsumoto, D. Culture and Psychology: People around the World. Wadsworth, 2000. ISBN:0-534-35436-X 北山忍『自己と感情』（共立出版，2003 年） ISBN：978-4-32-002859-3 2,600 円＋税
履修上のポイント	教材（マツモト，2001）は、参考図書としてあげた上記の図書（Matsumoto，2000）の翻訳書です。大半の章が日本語にされています。50 年にわたる研究・調査に関する図書なので、類書はなく、本書を批判的に読み、この領域を理解してみてください。 心理と文化について日本語で書かれた書物は、北山（2003 年）を紹介しておきます。
レポート課題 1	要約：教科書の第 1 章～第 4 章の中から 3 つの章を選び、3,000 字で要約する。 考察：選択した章の中から 1 つの章（あるいはテーマ）について、知識や経験をもとに、1,000 字で考察する。 留意点： 考察では、要約で用いた専門用語を用いて、論旨を展開することが肝要です。
レポート課題 2	要約：教科書の第 5 章、第 6 章、第 7 章を 3,000 字で要約する。 考察：3 つの章の中か 1 つの章（あるいはテーマ）について、知識や経験をもとに、1,000 字で考察する。 留意点： 考察では、要約に用いた専門用語を用いて、論旨を展開することが肝要です。

基 本 教 材 2	
教材の概要	著者名： 山口 勸 教材名： 『社会心理学』（東京大学出版会，2003 年） ISBN:978-4-13-012037-1 2,600 円＋税
	アジアの観点からの社会心理学の専門書です。「アメリカで提示された理論は、どの文化でも当てはまる」という前提にすることがある。本書は「社会心理学で扱う社会的要因は文化と密接に関連している」という観点から、その前提を検証するユニークな一冊です。
参考図書	トリアンディス, H. C. 『個人主義と集団主義』（北大路書房，2003 年）
履修上のポイント	個人主義と集団主義の見方は、トリアンディスを始め、グディカンスト, W.B. 山口と用いられてきた見方です。集団主義の味方については、構築の際の二元論の見方の問題あり、この講座では、個人主義について学ぶ機会にしてください。 「甘え」「面子」といったアジアの心理価値についても学ぶ機会にしてください。
レポート課題 1	要約：教科書の第 1 章、第 2 章、第 3 章を、3,000 字で要約する。 考察：その中から 1 つの章（あるいはテーマ）について、知識や経験をもとに、1,000 字で考察する。 留意点： 考察では、要約で用いた専門用語を用いて、論旨を展開することが肝要です。
レポート課題 2	要約：教科書の第 11 章、第 13 章、第 14 章を 3,000 字で要約する。 考察：その中から 1 つの章（あるいはテーマ）について、知識や経験をもとに、1,000 字で考察する。 留意点： 考察では、要約で用いた専門用語を用いて、論旨を展開することが肝要です。

基本教材 1

第 1 回	教材の学修：基本教材 1 の第 1 章
第 2 回	教材の学修：基本教材 1 の第 2 章
第 3 回	教材の学修：基本教材 1 の第 3 章
第 4 回	教材の学修：基本教材 1 の第 4 章
第 5 回	参考図書の学修及び図書館での検索資料の学修
第 6 回	参考図書の学修及び図書館での検索資料の学修
第 7 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 8 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 9 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 10 回	教材の学修：基本教材 1 の第 11 章
第 11 回	教材の学修：基本教材 1 の第 13 章
第 12 回	教材の学修：基本教材 1 の第 14 章
第 13 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

基本教材 2

第 1 回	教材の学修：基本教材 2 の第 1 章
第 2 回	教材の学修：基本教材 2 の第 2 章
第 3 回	教材の学修：基本教材 2 の第 3 章
第 4 回	参考図書の学修及び図書館での検索資料の学修
第 5 回	参考図書の学修及び図書館での検索資料の学修
第 6 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 7 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 8 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 9 回	教材の学修：基本教材 2 の第 11 章
第 10 回	教材の学修：基本教材 2 の第 13 章
第 11 回	教材の学修：基本教材 2 の第 14 章
第 12 回	参考図書の学修及び図書館での検索資料の学修
第 13 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成